

## 2021年度事業報告

**【事業に関する事項】** …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルスに振り回された1年でした。A級リーグが緊急事態宣言発令により延期され、22年1月になったのは想定外の事項でした。そんな中開催されたA級リーグでしたが、中山八段が見事挑戦権を獲得しました。これで中山八段は九段への昇段権利を得ました。シード争いも白熱し、同率3位で岡部九段と長副五段が並び、別日（3月27日）行われた決定戦で岡部九段がシード権を獲得しました。挑戦手合いは中村名人の体調不良により21年度中には実施できず、22年度に実施することになりました。連珠は体が資本です。コロナだけではなく、体調管理には注意したいものです。

昨年コロナ対策として、マスクの着用、対局室の人数制限の実施を行いました。その結果、A級リーグの観戦ができなくなったのは残念でしたが、その代わりWeb配信が定着したのは良かったことと考えられます。また、スマホアプリ『五目クエスト』と連動した普及活動も定着したようです。五目クエストの級位を実際の級と同じとみなし、各種大会に出場が可能となりましたし、初段位についても認め、数名の方が初段位を得ています。

SNS等インターネットを通じて引き続きアピールも仕掛けており、徐々に浸透していると思われます。コロナ禍で在宅が増えたことを逆にチャンスととらえ、新しい仕掛けを今後増やしていきたいと考えています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。残念ながら昨年度はコロナの影響ですべての海外棋戦が中止・規模縮小に追い込まれました。今年こそは国際大会が復活してくれることを願っています。

また、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

### 【総会に関する事項】

#### （1）定時会員総会

- ・2021年7月3日（土）13:30～15:00 於：江東区総合区民センター和室
- ・出席会員数84名（うち委任状71名、会員総数112名、出席率75%）
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、林昭一氏の3名を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・林氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・2020年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・2020年度の財務諸表等について、亀井監事より処理が適切であったことが報告され、議案書通り賛成多数で承認された。
- ・2021年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・役員候補者、及び組織・人事体制、審議承認について評決され、議案書通り賛成多数で承認された。
- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2021年8月号に掲載し、2020年度事業報告・収支決算、2021年度事業計画・収支予算案、役員の選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

### 【理事会に関する事項】

## 公益社団法人日本連珠社 2021年度事業報告

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略） 2021年4月20日(火)～同5月3日(月)
  - ・出席役員 理事13名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
  - ・議事録作成者：河村理事長
  - ・第3号議案で理事人員を12名とすることが承認、決議された。  
(新任理事となった牧野氏は、後日理事就任同意が得られず、理事から除外した)
  - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「2020年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 2021年7月3日(土)13:00～16:00（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、13時30分～15時迄中断） 於：江東区総合区民センター和室
  - ・出席役員 理事10名（理事総数12名）、監事2名（監事総数2名）
  - ・議長：河村理事長
  - ・書記：河村理事長・岡部理事・林理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事2名
  - ・第1号議案で、2021年度連珠社運営体制を決議した。
  - ・第5号議案で、A級リーグ事前対局の方法について検討を行った。
  - ・第6号議案で、新型コロナウイルス対策について検討を行った。
  - ・第8号議案で、連珠社HP見直しについて検討を行った。
  - ・第9号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
  - ・議事録を全役員（理事12名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2021年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 2021年10月31日(日)13:00～15:30 於：江東区総合区民センター
  - ・出席役員 理事10名（理事総数11名うち3名はリモート出席）、監事1名（監事総数2名）
  - ・議長：河村理事長
  - ・書記：河村理事長、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事1名
  - ・第1号議案でA級リーグの日程が検討された。
  - ・第2号議案で連珠社HP改定について検討を行った
  - ・第3号議案でスポンサー募集・補助金申請について検討を行った。
  - ・第6号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
  - ・議事録を全役員（理事11名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2021年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略） 2022年2月8日(火)～同2月21日(月)
  - ・出席役員 理事11名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
  - ・議事録作成者：河村理事長
  - ・議事録を全役員（理事11名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2022年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

### [委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
  - ・各段位免状発行、五目クエスト実績による級位認定書の発行を行った。
  - ・会員名簿管理、機関誌送付先管理、入会・退会者管理を行った。
  - ・盤罫紙発送手配を行った。盤罫紙在庫減により作成を依頼し、発注し、納入した。
  - ・総会案内・会員名簿・会員証発送、昇入段者・新規会員の発表を行った。
  - ・内閣府への各種報告、活動計画提出資料の登録を行った。
  - ・寄付入金者の発表を行った。
  - ・ホームページからの問い合わせの対応を行った。
  - ・檀紙免状用桐箱在庫減により作成を依頼し、発注し、納入した。

## 公益社団法人日本連珠社 2021年度事業報告

### (2) 普及推進委員会

- ・東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2022年3月で242回を数える。
- ・2018年度に作成した「級位認定規定、級位認定ガイドライン、級位認定例題」を普及活動の中で活用した。
- ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、シモキタ名人戦をはじめとする各種イベントへ出展し、普及推進につなげた。
- ・全国各地で自治体・自治会などが主催するイベントに出展し連珠の認知度をアップさせた。
- ・小学校の土曜教室、クラブ活動で連珠教室を開催し普及推進につなげた。
- ・SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。
- ・普及活動を連珠世界誌で報告した。
- ・各支部の例会に利用している公民館にパンフレット、連珠会案内を置き普及に努めた。
- ・各地区のイベントで子ども用ににゃんこならべ大会を開催した。
- ・五目クエストの友達機能を使ってオンライン大会を開催した。
- ・普及推進委員を2名追加し、普及活動拡大を図った
- ・普及推進委員メールにて普及活動に関する情報交換を行った。

### (3) 財務委員会

- ・日々の入出金を管理すると共に、収支決算書及び財務諸表を作成した。一方、より緻密な財務管理のため、2022年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。
- ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・各委員会活動の精算や理事会、総会、名人戦の精算を遅滞なく行った。

### (4) 広報委員会

- ・有志の協力を得て、一般向けに第59期名人戦A級リーグの中継を行なった。
- ・名人戦等の開催にあたり、マスコミ、他競技、桑名七盤勝負などの関係者と連絡を取り、取材対応、広報活動を行なった。
- ・SNSへの情報提供を行なった。
- ・「シモキタ名人戦」「徳島城博物館子ども歴史講座」をはじめとする各種イベントへ出展した。

### (5) 国際委員会

- ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
- ・新型コロナウイルスの影響と対応について各国のキーマンと意見交換を実施した。

### (6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、790号から801号まで遅滞なく発行した。22年2月号は800号記念特集として60頁とした。
- ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。

### (7) メディア委員会

- ・連珠社ホームページを維持するとともに改善・充実を行なった。具体的には、公開情報や規定等の最新版維持、名人戦A級リーグ戦の速報を始めとする主要棋戦の結果報告、各種棋戦やイベントのカレンダー形式での表示、入会促進情報の提供や「連珠世界」誌最新号の紹介、詰連珠問題の毎週提供、新型コロナ対処方針の掲載、等を行なった。
- ・連珠社ホームページのリニューアルのための作業を行なった。SNSへの効果的な対応、ホームペ

公益社団法人日本連珠社  
2021年度事業報告

ージ管理者の世代交代を主な目的として、協力者の支援を得ながら新しいホームページの設計を行なった。

- ・組織としての連絡体制を支援するメール環境の維持・充実を行なった。具体的には、メーリングリストや委員会メールアドレスの更新・維持を行なった。

(8) 珠規審議委員会

- ・四珠交替打ちの実施状況を確認し、新たな開局規定の必要性を検討した。
- ・日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。
- ・「五目クエスト」への新開局規定実装に際し、情報提供を行なった。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請があり次第、日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく段免許状の発行と機関誌上での発表を行った。  
2021年度に於いては、理事会で審議すべき例外事案の発生はなかった。
- ・2021年度昇入段者数は下表の通り。一昨年から昇入段申請は増加が続いており、2021年度は前年度より13名の増加申請があり、遅滞なく承認した。五目クエスト経由での入段、級位者棋戦の活性化などが主な要因と考えられる。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	永世名人	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
2021年度		1	0	1	3	2	0	4	8	14	33
2020年度		0	0	0	0	1	3	1	5	10	20
2019年度	1	0	1	1	1	2	1	2	2	7	18
2018年度		0	0	1	0	2	1	0	1	4	9
2017年度		0	1	1	1	1	3	1	0	3	11

(10) 名人戦運営委員会

- ・第59期名人戦は、昨年同様コロナ禍により各地区予選が遅延したが無事7月には10名の代表選手を選出できた。
- ・挑戦者決定リーグ戦を、2021年9月に焼津市の<西焼津セントラルホテル>で実施する予定であったが、コロナウイルスの蔓延により、2022年1月に延期して実施した。  
近年観戦者が増加していたが昨年同様一切の観戦をお断りしインターネットによる中継に努めた。中継にはコマラボさんのご協力を得た。  
また、同名人位挑戦手合い5番勝負は、中村名人の体調不良により、2022年度に延期することとなった。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に報告のあった結果をRIF（国際連珠連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・第109回、第110回の通信戦大会を実施した。参加者増加が見込めず、対戦の組み合わせもままならない状況が続いてきた。しばらく前から理事の方々にも参加を促したが、参加者はいなかった。こうした状況に鑑み、予定通り110回を以て全国通信戦大会を終了することとした。
- ・2020年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象として、第十五回詰め連珠大賞を選考、決定した。大賞は該当なし、作品賞は高村政則氏作特別昇入段テスト第9問（20年12月）、作品賞特別賞として江良陸員氏作「軒下の雪だるま」（20年4月）となった。作品賞の高村氏には、カップを贈呈した。
- ・第46回四追い作品コンクール、第42回限珠案コンクールを実施した。
- ・特別昇入段テストを実施、西田敏生五段が合格した。
- ・月例詰め連珠、天狗道場をつつがなく実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・2021年度は、特別表彰の該当者はなかった。